



あやめ



文責：生徒指導主事 櫻本直弘

3学期は「助走期間」

1月9日（金）、16日間にわたる冬休みも終わり、無事に3学期の始業式を迎えることができました。3学期は新しい年、2026年（令和8年）のスタートでもあります。気持ちを新たに、新年の目標（決意）を胸に、始業式を迎えた人も多かったのではないのでしょうか。

始業式の中で笹本校長先生からは、「3学期は新年度に向けた『助走期間』である」とのお話をいただきました。「高く」「遠く」「美しく」跳躍するためにはしっかりと「助走」が必要です。当然体育の授業でもそのようなことは学ぶはずですが、ここで言う「跳躍」「助走」は少し意味が違います。校長先生は、1年生には「先輩となる新年度の姿」を、2年生には「学校の顔となる新年度の姿」を、3年生には「新しい場所で輝ける社会性を身に付けた姿」を「跳躍」と捉えていましたが、みなさんはどうでしょう。あなたにとっての「跳躍」って何ですか？

「助走」はどうあるべきだと捉えましたか？ぜひその点を自分自身でしっかり考えてみてください。

3学期

高・遠・美

助走 期間

先輩

1年（手本）

学校の顔
～清々しく～

2年（授業・部活）

社会性

3年（挨拶・礼儀）



また、始業式の中で4名の代表生徒が「2学期の反省と3学期の抱負」を語ってくれました。1年生代表の関根篤人さんからは「スキー教室に向けて時間の意識をさらに高め、行動や考えを見直すことで、先輩となる準備を進める決意」について、2年生代表の間瀬悠斗さんからは「4月から最高学年として良いスタートが切れるよう、まずは目の前のスキー教室を立派に成功させる決意」について、3年生の杉山みまるさんからは「苦手なことから逃げることなく、青学年としてみんなで受験に向かい、感謝の気持ちを胸に立派に卒業式を成功させたいという熱い思い」が語られました。最後に、新生徒会長の内田溪花さんからは「小さなことにも耳を傾け、温かく居心地の良い学校を作っていこう」というメッセージが伝えられました。



1年生 関根篤人さん 2年生 間瀬悠斗さん 3年生 杉山みまるさん 生徒会長内田溪花さん



※今回、全体的に写真の画質が良くないです。すみません。

本当に大切なものって…

「本当に大切なものってなかなか目には見えない…。」『星の王子様』の作者として有名なサン＝テグジュペリもこのような言葉を残しています。

例えば「**こころ**」ってどこにありますか？「**いのち**」ってどんな形をしていますか？「**気持ち**」ってどこを見ればわかりますか？「**愛情**」ってどうすれば伝わりますか…？私たちが目に見えるもの、あるいは表面に出ていること、それらにばかり気が向いていると、本当に大切なことを見失う。そう思いませんか？また、目には見えない（形のわからない）ものだからこそ大切にしなければならないのではないですか？

例えば学校の中、クラスの中で考えてみてください。表面上は笑っている隣の子、でもその笑顔って本当に心からのものなののでしょうか？あなたの大切な仲間がいたとして、あなたの一言で心を傷つけてしまったかどうか、どこを見れば判断できるのでしょうか？SNS上で発する言葉や掲載した画像等、それらを受け手がどう捉えているのでしょうか？

かつてメディアでも取り上げられることの多かった尼僧、瀬戸内寂聴は著書の中で「**学校の成績より、他者の苦しみを思いやれる想像力のある人間こそ素晴らしいのです…。**」と語っていた。まさしくこの「**想像力**」こそが、**社会の中で円滑に人間関係を築いていく「核」となる**のではないのでしょうか。

私たちは人間です。**人間には「想像力」があります。**目に見えない、形のわからないものを想像する力があります。ぜひ、その想像力を働かせてください。「こう思っているかな？」「こう感じるかな？」「もしかしたら迷惑をかけちゃうかな？」そんなちょっとした想像力を3学期は意識してみてください。より良い楕形中を作っていくために。

山梨県の代表として

全国都道府県対抗女子駅伝大会の山梨県代表選手として3年生の高野聖女さんが選出されました。1月11日（日）に京都府で大会が行われ、3区を走り区間37位の立派な走りを見せてくれました。お疲れさまでした。（ちなみに山梨県は総合41位でした。）

